

教育実習生のみなさんにおすすめの本を紹介していただきました。

藤田朋弥先生 (世界史)

『終末のフール』

伊坂幸太郎 著 集英社文庫

生徒の皆さんにおすすめする本を考えた時に、その印象の強さ・世界観からこの本を選びました。平たく言ってしまうと「地球滅亡モノのSF」なのですが、この本は少々毛色が違います。

作中の世界では3年後に小惑星が地球に衝突する未来が待っています。そんな非日常的な事態なのに人々の生活が落ちついているのは、8年後に小惑星が衝突することが判明しパニックになった5年間が過ぎ、色々あったものの何となく平和な状態になっているから。そんな日常で描かれるのは恋愛・友情などの人間模様。非日常なんだけどのんびりした世界観に浸ってみるのはいかがでしょうか？

濱 孝寛先生 (現代文)

『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ 著 岩波書店ほか

「おねがい…ヒツジの絵を描いて！」そんな小さな声で話しかけてきたのは、小惑星 B612 からやってきた、小さな小さな王子さま。彼は夜空に浮ぶ星々をめぐりながら、様々な大人に出会いました。でも、その大人たちは、何か大切なことを忘れてしています。「一いちばんたいせつなことは、目に見えない。」このやさしいメッセージを、王子さまは私たちに伝えてくれます。童話ですから、本が苦手な人でも読みやすい一冊です。童話ですが、奥が深く、本好きにもおすすめの一冊です。星の王子さまと、忘れかけた大切なことを、思い出しにいきませんか。

**☆図書委員からのオススメ☆**

『あん』 ドリアン助川 著 B913-ド

どら焼きの「どら春」。

特にこだわりなんてない、どこにでもあるどら焼き屋。

そんなどら春を経営する男・千太郎の前にある日一人の女性が現れる。

「どら春で雇って欲しい」。

何度もそう言われ根負けした千太郎はその女性・吉井徳江とともに

どら焼きを作り始めるが…………。

どこの町にもあるような、潰れないけど繁盛もしない、そんなお店のお話です。

徳江のおかげでどら春にも「春」がやってきますが、それは突然去ってしまいます。

だんだんと明かされる徳江の過去、千太郎の過去、そして徳江の今、千太郎の未来。

それぞれ辛い過去を背負い、苦い経験をしてきた二人が作った甘くて美味しい「あん」。

その「あん」の詰まったどら焼きが繋ぐ、町の人との絆。

千太郎を取り巻く人間が少しずつ少しずつ変わっていく中、果たして彼はどう生きるのか。

壮絶な人生を歩んできた徳江が千太郎やその周りに教えた「生きる意味」。

彼女からのメッセージを受け取った人々がどう前に進むのか、是非確かめてみてください。